

年 頭 所 感

明 け ま し て

お め で と う ご ざ い ま す

地質調査所長 陶 山 淳 治
Junji SUYAMA

昨年 12月に磯見 博前所長の後をうけて地質調査所長を命ぜられました。昭和57年の新春に際し 読者の皆様からの常日頃の地質調査所の研究業務に対する御理解・御協力を深く感謝致します。

地質調査所は 今年で創立 100 周年を迎えます。この間 地質・地下資源に関する国立研究機関として わが国の社会経済の発展に貢献してまいりました。最近 は益々多様化する社会からの要請に鋭意応えるため 一段と努力しているところでございます。

御承知のように わが国経済は石油危機 (昭和48年) による幾多の障害をのりこえ 徐々に立ち直りを見せ エネルギー政策等の転換を踏まえ 安定成長路線に向っております。しかしながら 国際環境の目まぐるしい変化のもとで 引続き経済の安定成長を遂げてゆくことは 必ずしも予断を許すものではありません。

このような情勢の中で 資源の乏しい我が国にとって エネルギー・鉱物資源の安定確保とより住みよい社会の創造のための諸施策は 重要な課題となっております。そのため 当所の研究業務に対する社会的要請も 近年多様化の一途をたどっております。すなわち 地熱資源の開発・地震予知・海洋開発等 国家的プロジェクトの推進のための研究業務が益々増大しており その使命の重大さを認識し 諸課題に積極的に対応してゆく所存であります。昭和57年度には以下の諸分野を重点として 研究業務を進めることを計画しております。

1. 国の基本的業務の分担

日本列島の地質学的実態の解明を通じて地下資源の探査や国土の開発・保全 (地域開発を含む) に重要な基礎資料となる 種々の地質図の作成 (とくに国土の基本図としての5万分の1地質図幅の研究等) は 当所の創立以来の基本的研究業務であります。近年においては 日本列島周辺海域の海底地質図や空中磁気図の作成・岩石標準試料の作製等に関する研究も実施しております。



陶 山 淳 治 所 長

2. エネルギー・鉱物資源など重要政策課題への対応

新エネルギー資源の1つとしての地熱資源に関する調査研究——地熱探査システムの開発とその検証 深部熱水系探査技術及び資源量評価技術の開発 データベースによる国土地熱資源基本図の作成——をはじめとして 深海底鉱物資源・未開発陶磁器原料及びせつ器粘土鉱床資源・地質リモートセンシング技術・石炭有効利用のための炭質評価技術・種々の鉱床の探査と資源量評価技術などに関する研究 及び地下資源探査を主とする海外技術協力・国際協力等を推進して参ります。

3. 国土の環境保全と自然災害の予知・防止

地殻活構造・岩石破壊実験・地下水観測・地震波速度の変化などによる地震予知に関する研究 火山噴火予知に関する研究 沿岸水域の底質汚染に関する研究 筑波台地の地質に関する研究等を継続的に実施してまいります。また 原子力施設等の地盤安定性の評価技術に関する研究を新規に実施します。

また 将来の研究開発のシーズを育てるため 地球科学全般にわたる創造性豊かな目的基礎研究を充実してまいります。さらに 地球科学情報の整備なども研究業務の効果的推進のために重要な要素となります。

このように地質調査所の果すべき役割が ますます増大している折から その責務の大きさを自覚し 国内外の研究機関との協力のもとに 国家・社会の期待に応えようよう最善を尽す所存でありますので 今後共一層の御支援・御協力のほどお願い申し上げます。